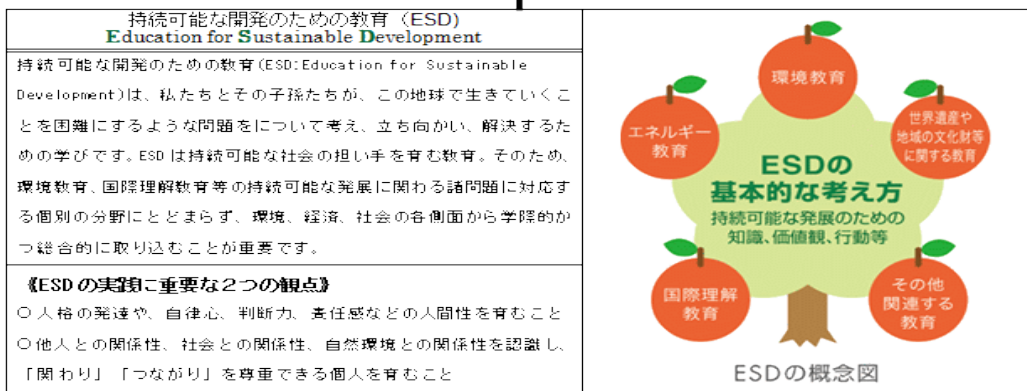
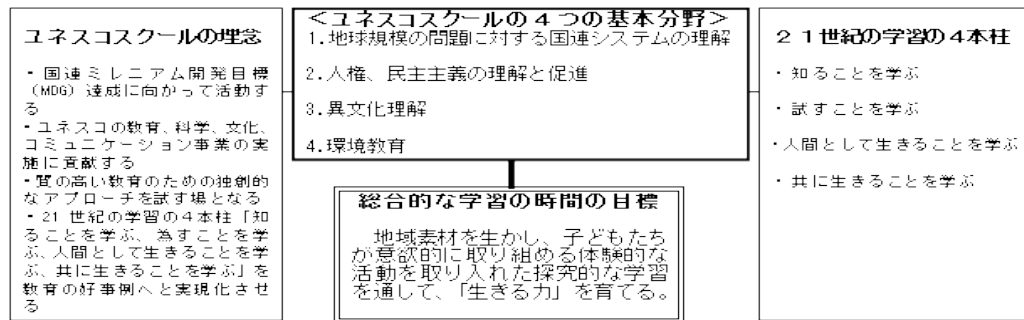


1 本校のESDの特徴

ユネスコスクールの取組の柱の一つが総合的な学習の時間における取組である。本校の総合的な学習では、地域素材を生かした体験的な活動を取り入れ、教科の枠を超えた横断的・総合的な活動となるよう充実を図っている。このような学習活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力などをはぐくむとともに、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得にも資するなど教科と一体となって子どもたちの力を伸ばすものである。

本校の総合的な学習の時間の計画に当たっては上記の基本的な考え方に加えてユネスコスクール実践校としてESD「持続可能な開発のための教育」の視点を盛り込んでいる。「食・福祉」「地域理解」「環境」「国際理解」などの各学年のテーマにSDGsの視点を組み込むことで安心して暮らせる未来の実現のために課題を発見する力や解決のための方法を考える力、協同して課題の解決に当たる力や態度を育みたいと考えている。

2 全体計画



＜総合的な学習の各学年の内容＞
※各学年の総合的な学習の内容にESDの視点を盛り込み、「社会や未来のためにできること」を考え、実践していく。

学 年	3年「食・健康」	4年「地域」	5年「環境」	6年「国際理解」
主 要 な 学 習 事 項	◎いのちの大切さや安全で健康な生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎地域についての理解を深め、地域のよさを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎環境問題についての理解を深め、自分にできることを考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか	◎世界の諸問題や人々について考え、自分の将来や生き方について考える。 ○手話学習 ○外国語活動 ほか
学 習 内 容	○食に関わる内容、施設 ○自身の健康、生命の神秘、不思議、素晴らしさ等	○地域の施設や自然 ○地域の伝統や文化を守る人々等	○身近な自然環境とそこに起きている諸問題 ○環境を守るための活動に取り組んでいる人々等	○海外の国や地域で起きている諸問題や解決のための方策 ○将来への展望等

＜特別活動における取組他＞
【特別活動のねらい】学校生活の充実と向上を図り、自発的自治的な活動を通して自主性・社会性を育成する。
○書記局の呼びかけによるクリーンプロジェクトによって身近な環境に目を向け、環境を守る態度を育成する。
○ボランティア委員会を中心に行っている書き損じハガキ集め活動の経過、結果をいつでも目につくようにユネスコ掲示板を活用していく。
○ユネスコスクール、ESDについて、職員の間で理解を深めるための研修を行う。

＜全校一斉の取組＞
ユネスコスクール集会（年2回）
①総合的な学習の計画や活動の経過を発表する集会。
②1年間の活動のまとめやユネスコスクールの一員として「社会や未来のためにできること」を発表する集会。
・ユネスコスクールの活動を保護者や地域の方々にも広く理解してもらうため、集会の参観を呼びかける。
・ユネスコスクール集会以外にも学年・ブロック単位で活動、実践発表会を積極的に設ける。

3 活動事例

【各学年でのテーマ】

3年生：大切な命・福祉・食
4年生：北海道のことを知ろう（昔のこと・雪）
5年生：環境問題プロジェクト
6年生：世界に目を向けて
児童委員会：リングプル・ペットボトルキャップ回収の取り組み



《3年生》

石狩市の福祉課の方を招き、ゲストティーチャーとして授業を実施。車椅子体験・視覚障がい者体験・高齢者体験や調べ学習を通じて、主体的にまとめ、問題意識を持たせた。

《書記局》



ペットボトルキャップは、ワクチンへ、リングプルは、車いすへとかわるため、全校児童に呼びかけ、学級対抗などの回収キャンペーンを行った。

《5年生》

石狩浜でのごみ拾いや道民の森（宿泊学習）での環境にかかわるワークショップを通じて、環境に配慮する工夫について新聞にまとめた。



《4年生》



《6年生》

日本から海外へ広げ、「世界の問題」について調べ学習を行った。「世界がもし100人の村だったら」をスタートに、それぞれが関心を抱いたテーマに向かって調べ学習を行い、パワーポイントのスライドにまとめた。

アイヌ協会よりゲストティーチャーを招き、アイヌ文化について理解を深め、さらに社会見学で北海道博物館を訪れ、個々の視点で意欲的に新聞にまとめた。



4 成果と課題

本校ではユネスコの理念に沿った活動に各学年での総合的な学習の時間の取組に加えて、書記局が取り組んでいる。書記局は、書きそんじハガキやペットボトルキャップ・リングプル回収の説明などで全校児童に「世界の問題」「ユネスコの活動で協力していることがどのように生かされているのか」を啓発している。

持続可能な開発のための教育（ESD）は、今やSDGsの理念と重なる部分が多く、SDGsの言葉の意味や耳にする機会が増え、社会に浸透していくのと同時に、子どもたちにも身近な課題となっている。「総合的な学習の時間」の中で、それぞれのテーマに基づいた各学年での教科を横断した多岐にわたる学習に取り組むことで、各教科で身に着けた力を総合的な学習の時間に発揮したり、その逆で活用したりする姿が見られている。そこには、「社会や未来のためにできること」を一人一人が課題意識を持っている姿がある。

この2年間、感染症予防のために集会活動を行うことができず、下学年に学習の取り組みを伝える場がなく非常に残念に感じているが、一人一台のタブレット端末の配備により、その活用で発表や交流の形にも工夫の余地があると考えている。

SDGsとESDを基本に、今後も一人一人が地球に暮らす責任のある一員だという意識を育む学習活動を、引き続き学校の教育活動で行っていく。